

森林体験学習

下関市立豊田下小学校の3・4年生が森林体験学習を実施

分類：新着ニュース, 林業

登録日：平成29年2月24日 | 下関農林事務所森林部

豊田町育林研究会は、平成29年2月22日(水)下関市立豊田下小学校の3・4年生23名を対象に森林体験学習を開催しました。体験学習は、椎茸の種駒打ち作業と豊田町内に生息しているニホンジカの角を使ったアクセサリーづくりを通じて、森林の恵みを体感する内容で実施されました。

椎茸の種駒打ち作業では、林研会員が準備したクヌギの原木に児童がドリルで穴を開け、種駒を丁寧に打ち込みました。椎茸ドリルは高速回転して危険な道具なので、林研会員の補助を受けながら全員が穴あけ作業を体験しました。種駒を打ち込んだ後、原木を集めて伏せ込み作業を行いました。また、伏せ込んだ原木から2年後の秋に椎茸が採取出来るようになることを学びました。

椎茸の駒打ちを終了した後、図工室に移動してニホンジカの角を使ったアクセサリーづくりを行いました。

最初に、豊田町の山にはニホンジカが多数生息して林業や農業に被害を出して問題になっていること、狩猟や有害捕獲などで殺処分されていること、殺処分されるニホンジカにも尊い命があること、そのまま捨てるのではなく肉として利用したり使える角や皮などを利用していくことが大切であることの話を行いました。

その後、これまで捨てられていた角の有効利用として、シカ角のアクセサリーづくりを体験しました。今回は、シカ角のストラップとシカ角のキーホルダーを子ども達が選んで製作体験を行いました。



シイタケの種駒打ち込み作業



シカ角のアクセサリーづくり

問合せ先

メール：a171074@pref.yamaguchi.lg.jp 電話：0837-66-1182